

# 第65回 文化講座

# 発掘調査速報 2016

【日 時】 平成28年8月6日(土)13:30~16:00  
【会 場】 沖縄県立埋蔵文化財センター 研修室

沖縄県立埋蔵文化財センター

## 第 65 回文化講座「発掘調査速報 2016」

平成 28 年 8 月 6 日（土）13：30～16：00

あいさつ	沖縄県立埋蔵文化財センター所長	金城 龜信
しらほさおねたばるどうけついせき 白保竿根田原洞穴遺跡	仲座 久宜… 1	
あはれんうらかいづか 阿波連浦貝塚（県内遺跡）	宮城 淳一… 5	
- 休憩 -		
にしふてんま 西普天間住宅地区	大堀 翔平… 9	
(基地内文化財分布調査)		
しゅりじょうこうえんなかぐすくうどぅんあと 首里城公園中城御殿跡	山本 正昭… 13	

- 質疑応答 -

# しらほさおねたばるどうけついせき 白保竿根田原洞穴遺跡

沖縄県立埋蔵文化財センター  
調査班長 仲座 久宣

事業名：白保竿根田原洞穴遺跡確認調査

所在地：石垣市字白保（新石垣空港敷地内）

時代：旧石器時代（後期更新世）～グスク時代

調査機関：平成 27（2015）年 6月 1日～6月 30日

調査面積：約 4 m<sup>2</sup>

## 1はじめに

白保竿根田原洞穴遺跡は、新石垣空港建設工事に伴う分布調査により発見された遺跡です。平成 22（2010）年には工事に係る範囲約 60mにおいて発掘調査を行いました。この調査で出土した人骨から抽出したコラーゲン（タンパク質）の年代を測定した結果、約 2 万年前とする結果が得られました。この成果は、人骨から直接的に年代を測定したものとしては国内最古として、関連する学会やマスコミからも注目を集めました。その他、遺跡からは約 2 万年前の旧石器時代から、約 500 年前のグスク時代までの遺物や堆積が確認され、約 2 万年前には石垣島に人類が到達していたことを明らかにするとともに、長期にわたり断続的に利用されてきたことがわかりました。このような重要な成果から、遺跡の中心部は空港の敷地内に現地保存されることになりました。

その後、遺跡のより詳細な性格・範囲を確認する目的で、平成 24（2012）年度から平成 28（2016）年度まで、文化庁の補助を受けて重要遺跡確認調査を行っています。

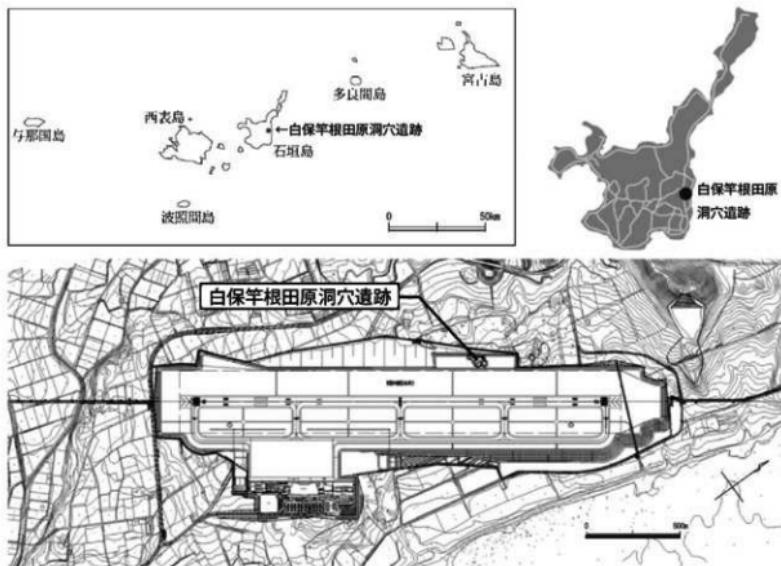
## 2 調査の概要

平成 27（2015）年度は、6月の 1か月間、遺跡の基盤層の確認を目的として発掘調査を行いました。調査にあたっては、出土遺物の分析に支障がないよう、また、出土状況の再検証が可能なように、検出や記録、取上げ、運搬、分析試料サンプリングに至るまで慎重かつ迅速に行うよう努めました。

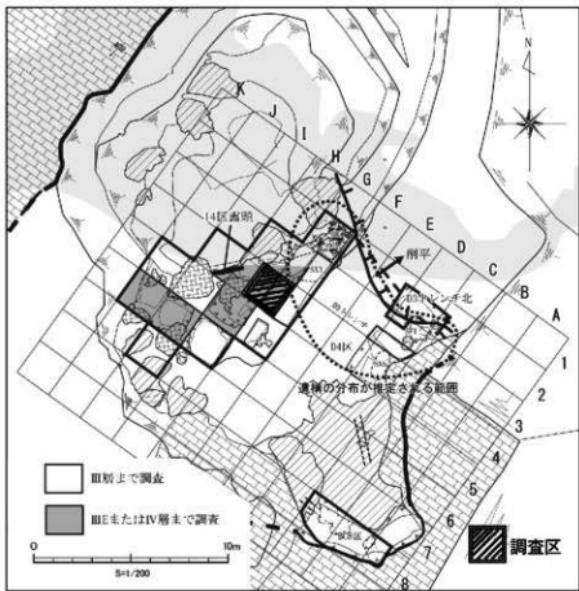
その結果、崩落岩の岩陰部分Ⅲ E 層（2 万～2 万 4 千年前 BP）から、人骨片がまとまって出土する状況が確認されました。人骨は部位的なまとまりがあることから、人体各部の位置関係を保った状態で埋蔵されている可能性があり、今後、出土状況について分析を行う予定にしています。

## 3 今後の計画

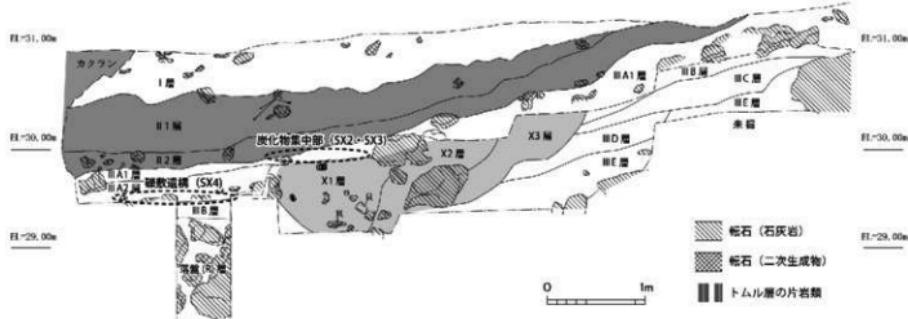
平成 28（2016）年度まで確認調査を行うとともに、遺跡の適切な保存や評価、地域での活用法について、考古学や人類学、地質学の研究者で構成した調査指導委員会により検討を行い、これまでの成果をまとめた調査報告書を刊行する予定です。



第1図 白保竿根田原洞穴遺跡の位置



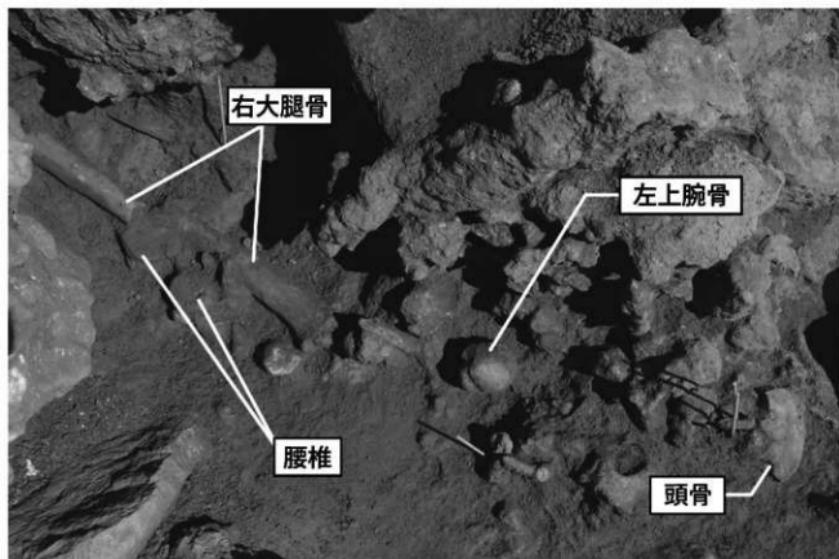
第2図 平成27年度調査範囲



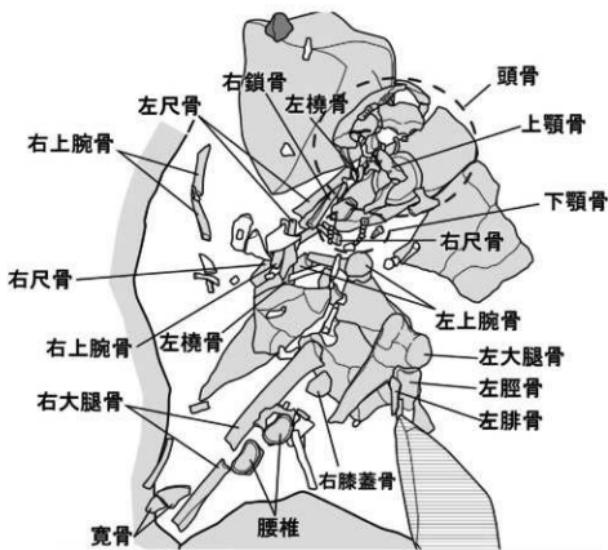
第3図 遺跡の基本層序

第1表 層序と主な遺構・遺物一覧

層序	時代 (年代BP)	遺構	遺物 (出土量: ◎=多い・○=普通△=少ない)														
			人工遺物				自然遺物										
			陶磁器	土器	貝・骨製品	石器・石材	人骨	魚類	カエル類	リクガメ類	トカゲ・ヘビ	鳥類	コウモリ	ネズミ類	ネコ	イノシシ	ウシ
0層	現代	-															
I層	中森期 (グスク時代・14~16世紀)	地床炉跡: 1基	△	△		△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	○	
II層	無土器期～中森期	津波堆積層か		△		○	○	△		△	△	△	△	△	△	△	
III A1層	無土器期 (約2000年前・弥生並行)	炭化物集中: 2基															
III A2層	下田原期 (約4000年前・縄文後期並行)	繰敷遺構		△		△	○	△	◎	◎	○	○	△	○	△	◎	
S層	下田原期 (約4000年前・縄文後期並行)	崖葬墓の可能性	△	△	△	◎	○	○	○	○	○	△	△	○	△	◎	
III B層	完新世前半 (8500BP~9500BP)	-		○	△	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	◎	
B層	後期更新世末 (12000BP)	-			△	△	○	△	○	○	△	△	○	○	○		
III C層	後期更新世 (16000BP~18000BP)	-			△	○	△	○	△	○	△	△	○	△	○	△	
III D層	後期更新世	-															
III E～IV層	後期更新世 (20000BP~24000BP)	-			◎	△	○	○	○	△	○	○	△	○	△		
A層	更新世か	-			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	



図版1 人骨出土状況（一部取り上げ後 画像右が頭骨 左が大腿骨・椎骨）



第4図 H4区III E層人骨出土状況平面図

# 阿波連浦貝塚（県内遺跡）

沖縄県立埋蔵文化財センター  
主任 宮城 淳一

事業名：県内遺跡詳細分布調査

所在地：渡嘉敷村阿波連浦

時代：縄文時代～弥生時代並行期

調査期間：平成 27(2015) 年 6 月 30 日～9 月 10 日

調査面積：約 20m<sup>2</sup>

## 1 調査の目的

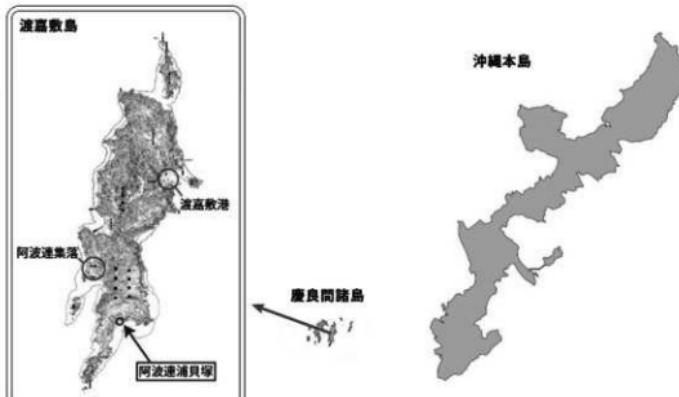
これまで埋蔵文化財の分布状況の把握が不十分であった慶良間諸島（渡嘉敷村・座間味村）において、平成 22～27 年度の予定で遺跡分布調査を実施しました。また、平成 27 年度までの調査成果をまとめた報告書「慶良間諸島の遺跡」を刊行しました。

## 2 阿波連浦貝塚の範囲確認調査

平成 27 年度は渡嘉敷村阿波連浦貝塚の範囲確認調査を実施しました。

阿波連浦貝塚は、渡嘉敷島南東隅の海岸砂丘に位置する縄文時代晚期～弥生時代並行期の遺跡で、昭和 53 (1978) 年に沖縄国際大学の学生による踏査によって、採砂中の砂丘より多くの貝殻や土器を発見しました。その後同大学試掘調査 (1978, 1979) 及び範囲確認調査 (1986, 1987) が行われ、その結果 3 つの文化層 (IV 層、VI 層、VII 層) が確認されました。また VI 層から出土し標識とされた阿波連浦下層式土器は縄文時代晚期から弥生時代並行期の時期に位置付けられ、南九州縄文時代晚期の黒川式と特徴が類似することが指摘されていることから、土器型式の変遷や九州地域との関連 (交流) を知る重要な遺跡と考えられています。しかし近年風雨や雨水の流れ込みにより遺跡の崩壊が進み、その保存が懸念されていました。

そこで当センターでは、遺跡の保護を検討するために平成 26 年度に地形測量と範囲確認調査を、平成 27 年度も引き続き範囲確認調査を実施しました。

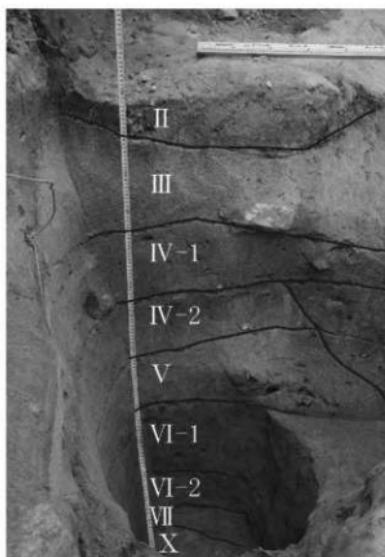


### 3 今年度の調査について

今回は昨年度確認した包含層の範囲を把握し阿波連浦貝塚の詳細な範囲を確認するために3か所に調査区を設定し調査を行いました。



平成 27 年度 阿波連浦貝塚 調査箇所 平面図



阿波連浦貝塚 基本層序 (左:平成 26 年度 トレンチ B 右:平成 27 年度 調査区①)

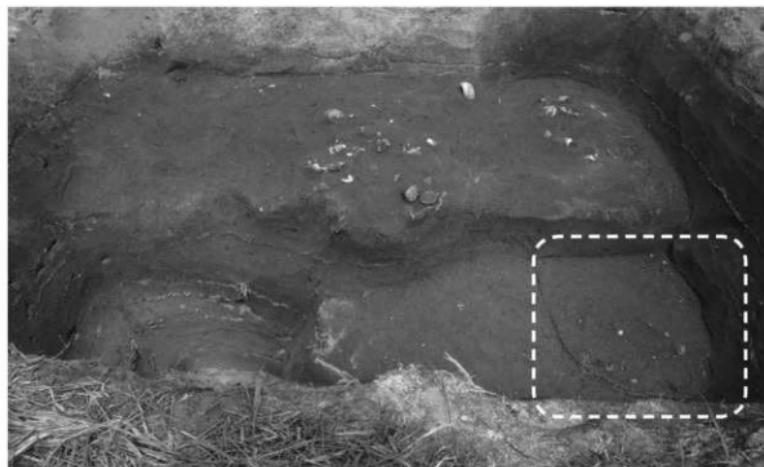
調査の結果、調査区②では北に向けて基盤層であるX層が北へ傾斜する状況が、また調査区③では地表から1.5mまで客土であるI層が堆積している状況が確認できました。さらに調査区①ではIV層からVII層を再確認することができ、新たな包含層であるIX層を確認することができました。

このうち調査区①で確認したVII層は調査区②やトレンチBに比べ厚く堆積しており、これに伴いVI層とその上層も高い位置で堆積していました。

遺構はIV層上面から貝集中遺構と土坑と思われる遺構が、VI層の上面からは貝集中遺構を確認しました。

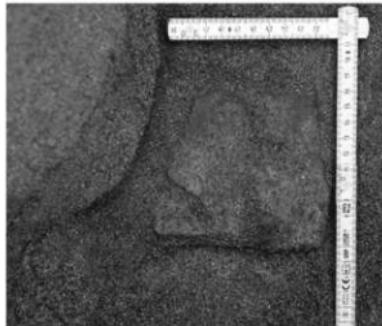


調査区① 貝集中遺構検出状況(実線:IV層検出 点線:VI層検出)



調査区① 土坑検出状況(点線部分)

遺物はIV層から無文尖底系土器や浜原式土器、阿波連浦IV層土器群、阿波連浦下層式土器の特徴を持つものが、VI層から標識である阿波連浦下層式土器が出土しました。また今回VII層より下の層から出土した無文土器は、ハケ状の器面調整がなされ、直線的な器形をしていることより縄文時代後期（点刻線文系様式）と考えました。この土器の出土層は過去に壺型土器が確認されたⅦ層よりも古いと考えられるためIX層としました。



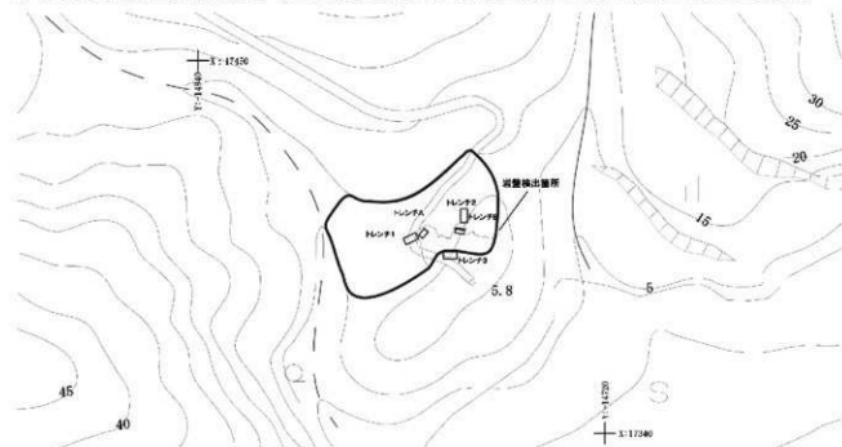
調査区① IX層 土器出土状況



IX層 出土土器

#### 4. 阿波連浦貝塚の範囲について

これまでの調査の結果、阿波連浦貝塚は、北及び東に露出する岩盤付近から砂丘が平面的に広がる南西の川跡付近まで広がり、南側は調査区③の北側までが範囲となると考えられます。



#### 5. 今後の保存について

阿波連浦貝塚は風雨や雨水の流れ込みによる遺跡の崩壊を防ぐため、調査終了後にドレンシートによって法面を覆い、遺跡を保護しています。

# にし ふ てん ま 西普天間住宅地区 (基地内文化財分布調査)

沖縄県立埋蔵文化財センター  
主任 大堀 皓平

## 1 基地内文化財分布調査とは ～これまでのあらすじ～

どのような事業なのか 沖縄県内の米軍基地や、自衛隊基地内にある埋蔵文化財（=遺跡）の有無を確認（分布・試掘調査）、さらにその範囲や性格を把握します（確認調査）。その結果を遺跡分布地図などにまとめ、文化財保護のための基礎となる資料を作成する事業です。

事業のあらまし 平成9年度から文化庁の国庫補助事業としてスタートしました。平成11年度からは返還決定をうけて、特に面積が広く緊急性が高い普天間飛行場内の試掘調査を開始しました。平成20年度には重要施設や滑走路などの調査不可エリアを除いた普天間飛行場内の約3～4割の面積について試掘調査がほぼ完了し、翌21年度にその成果をまとめた『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』を刊行しました。平成22年度からは、試掘調査で発見された遺跡の確認調査を行っています。

## 2 西普天間住宅地区的試掘調査 ～基地の下には遺跡が眠っていた～

発掘調査の経緯 旧キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区は、平成25年6月に返還が口米合意され、同27年3月31日に返還されました。返還後の跡地利用に先立ち、埋蔵文化財の保護のため、予め遺跡の有無や範囲・性格を把握する必要があるので、平成26年度から宜野湾市教育委員会が同地区的試掘調査を開始、そして平成27年度から宜野湾市教育委員会より協力要請を受けて、沖縄県教育委員会も調査に参加することになりました。

平成27年度の調査と成果 平成27年度の沖縄県は、西普天間住宅地区的東側について試掘調査を行いました。その結果、縄文時代・グスク時代・近世・近代の複合遺跡である普天間石川原第二遺跡、近世・近代の墓跡である安仁屋東原古墓群、近世・近代の道跡である普天間旧道跡の3つの遺跡を発見しました。



図1 西普天間住宅地区位置図

### 3 調査成果の概要～発見された遺跡とは～

普天間石川原第二遺跡 平成26年度の宜野湾市教育委員会の調査成果も合わせた結果、縄文時代、グスク時代、近世・近代の3つの時代にまたがる遺跡であることが分かりました。また試掘で遺構や遺構のあった地層が確認される試掘坑も多いので、現時点では広い範囲が遺跡として想定されています。

主な遺構として、先史時代とグスク時代の上坑や柱穴、近世・近代の土坑や溝、かまどなどが検出されています。遺物には縄文時代の土器片、グスク時代の青磁、近世・近代の陶磁器などが出土しました。

写真1 普天間石川原第二遺跡の地層堆積

- I 層：戦後の造成土
  - II～III層：近世・近代（calBP200～140）
  - IV～VI層：縄文時代（calBP3,970～2,870）
  - VII 層：地山の赤土層（calBP22,510）
- ※IV～VI層は確認されない場所もある。  
※IV層で検出される遺構は弥生～平安並行時代からグスク時代の遺構。

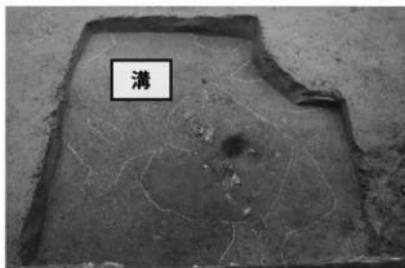
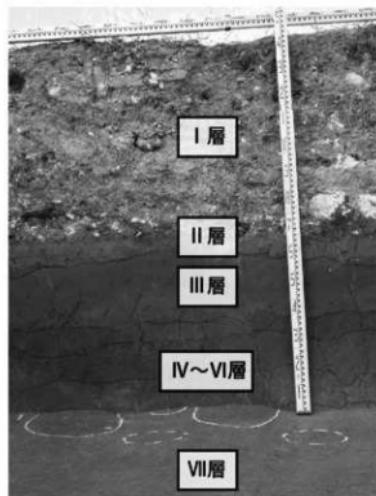


写真2 普天間石川原第二遺跡の遺構検出状況例

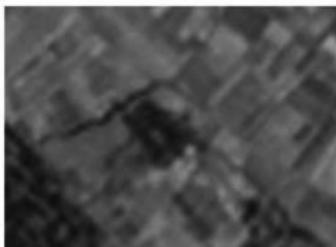
代表的な2つの試掘坑。どちらも縄文時代やグスク時代の建物に関連するとみられる遺構が、近世・近代の畑に関連するとみられる溝に一部が切られています。様々な時代で、この土地が性格を変えつつも人々に利用されていたことを示しています。

安仁屋東原古墓群 試掘とその後の確認調査によって、2基の墓が発見されました。東側の墓1は、屋根部が戦後の改築で失われていましたが、墓内と墓庭は良好な状態で残されていました。西側の墓2は、墓1と同様に屋根部が崩れ、墓庭部分も失われていましたが、墓室は良好な状態で残していました。近世・近代の墓は、丘陵沿いに作られることが多いため、今回調査した場所の周辺でさらに古墓が検出される可能性が高いと思われます。



写真3 検出された墓

試掘とその後の確認調査で、2基の墓が検出されました（左上写真）。中央の墓1をみてみると、戦後の開発で屋根は失われているが、墓室と墓庭は残されています（右上写真）。昭和20（1945）年の航空写真にも、畑の中に一箇所だけ緑地が残る箇所が確認されます（下写真）。遺跡はまさにこの場所で検出されました。



普天間旧道跡 1945年米軍撮影の航空写真で確認することができたため、この道があったと考えられる場所の4か所を試掘したところ、いずれの場所でも普天間旧道の遺構を確認することができました。さらに道跡の広がりを調べるために確認調査を行ったところ、側溝部分を含めて道幅が約4.7mと確認されました。この道跡の遺構は、西普天間住宅地区の東側にある海軍病院建設予定地内における発掘調査や平成26年度の西普天間住宅地区フェンス付近の道路工事に伴う試掘確認調査においても確認されているため（宜野湾市教育委員会より情報提供）、かつて旧道が通っていた箇所には、道跡が残されている可能性が高いと考えられます。



写真4 普天間旧道跡

道は硬化した土で覆われ、両側に3段に積まれた縁石が敷設されています。硬化された面は上下2面あることが確認されました（右写真）。上の硬化面直下の土中からの出土物は近世の遺物に限られるため、近世から近代にかけ、一度以上の増改築が行われたとみられます。

#### 4 今後の調査計画

西普天間住宅地区では、平成28(2016)年度も引き続き試掘調査を行うとともに、試掘によって発見された遺跡の本調査を行っていきます。沖縄県は西側の緑地部分の試掘・確認調査を行っています。

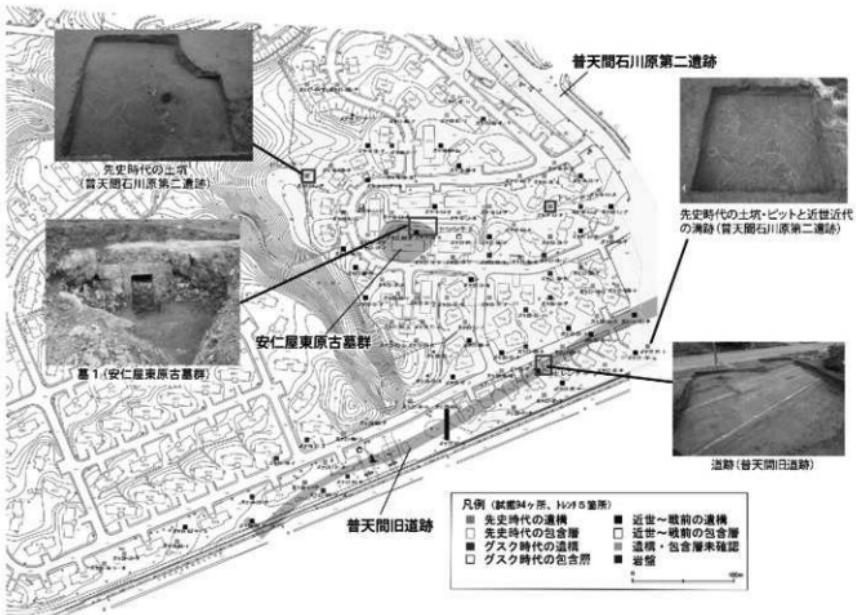
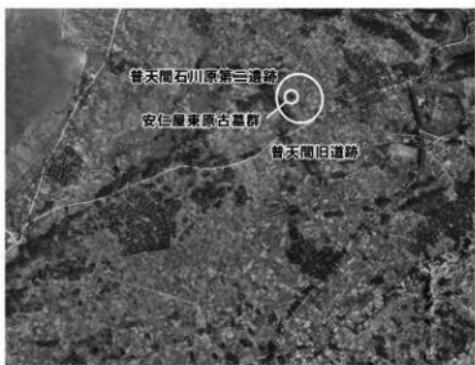


図2 発見された遺跡の位置（上）と戦前の西普天間住宅地区航空写真（下）

平成27年度調査箇所の多くで遺構もしくは文化層と目される地層（IV～VI層）が検出されたため、普天間石川原第二遺跡は、現時点では広域な遺跡範囲が想定されます（上図）。

また、安仁屋東原古墓群、普天間旧道路ともに戦前の航空写真に確認され、今回の試掘で、それぞれの該当箇所から遺構が検出されています（下写真）。



# しゅりじょうこうえんなかぐくうどうんあと 首里城公園中城御殿跡

沖縄県立埋蔵文化財センター  
主任専門員 山本 正昭

事業名：首里城公園発掘調査

所在地：那覇市首里大中町1-1

時代：近世～現代

調査期間：平成27年6月1日～平成27年12月26日

調査面積：300m<sup>2</sup>

## 平成27年度発掘調査の主な成果

### トレンチ1

戦前まで中城御殿の北西部に尚家の御嶽が存在していました。この御嶽の岩塊が現地に残存しているため、その周辺の遺構確認を行いました。その結果、東西と南に面を有する2段～3段の切石積みが岩塊の南側から検出されました。戦前の写真との照合を行ったところ、かつて御嶽の上部まで登坂できるように取り付けられていた石階段の基底部であることが判明しました。また、沖縄戦時に構築されたと思われる避難壕が石階段の基底部下から検出されました。この壕は証言記録から戦時に中城御殿内部で飾られていた器類を避難させた壕の可能性があります。また、近代に石段が構築される以前のものとして近世の石囲い遺構が3基、検出されています。

### トレンチ2

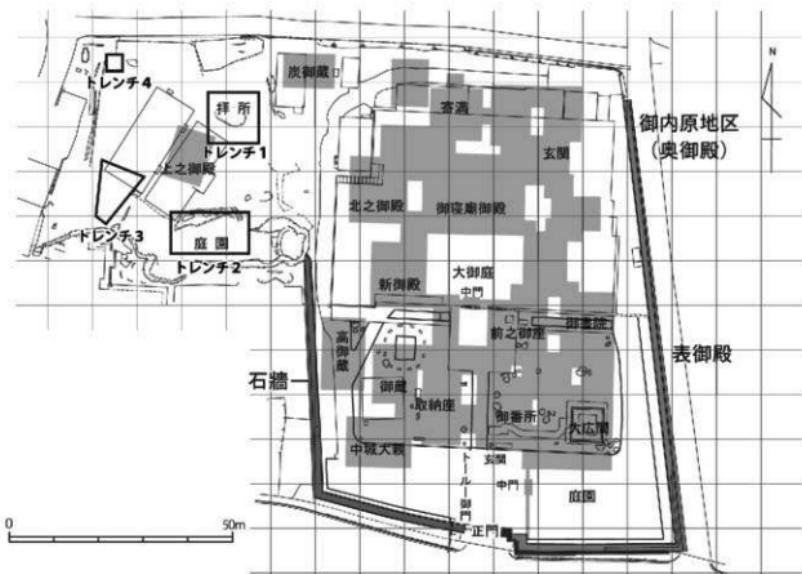
かつて上之御殿の南側に狭小な池を伴う庭園があり、その範囲を確認するために調査区を設定しました。前庭部には東西方向に広がる池が見られ、その池に隣接して西側へ展開する別の池が設置されていたことが新たに判明ました。池の底面はモルタルが張られており、底面は凹凸が著しいことが確認されました。また、庭園上面の岩盤は平坦に整形されており、南側の縁に切石積みの基壇状遺構が検出されています。

### トレンチ3

かつて中城御殿跡の西端を南北に画す石牆が存在していました。その石牆の基礎を確認する目的で設定したトレンチで高さ3m、幅約15mの石積み遺構が検出されました。石積み遺構は南側の半部で、北側は攪乱が著しく確認はできませんでした。この石積み遺構からさらに西側へ続く切石積みの石積み遺構も確認されました。また、南北方向の石積みに隣接して、井戸跡も検出されました。これらの遺構は出土遺物などから近代以降に構築されたと考えられます。

### トレンチ4

中城御殿の北西隅に2m×2mの試掘坑を設置したが、戦後の攪乱が著しく、とくに遺構等は検出されませんでした。



中城御殿建物復元配置図と平成 27 年度調査区位置図



写真 1 トレンチ 1 全景 (北から) 発掘前と発掘後



写真 2 トレンチ 1 (東から) 石積み遺構検出前と検出後



写真3 トレンチ2西側全景（東から）発掘前と発掘後



写真4 トレンチ2東側全景（西から）発掘前と発掘後



写真5 トレンチ3全景（北から）発掘前と発掘後

#### 【参考文献】

沖縄県立博物館『沖縄県立博物館 50年史』1996

財団法人海洋博記念公園管理財団『首里城尚家関係者ヒアリング調査法務報告書』2010



## 今後の催し

●東日本大震災から復興へ向けての埋蔵文化財発掘  
調査パネル展（仮題）

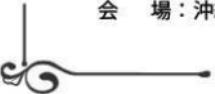
開催期間：平成 28 年 10 月 25 日（火）～11 月 13 日（日）

会 場：沖縄県立埋蔵文化財センター エントランスホール

●重要文化財公開「首里城京の内跡出土品展」

開催期間：平成 29 年 2 月 21 日（火）～5 月 14 日（日）

会 場：沖縄県立埋蔵文化財センター 企画展示室



## 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7  
TEL : 098-835-8751 FAX : 098-835-8754

入場無料

開所時間：午前 9 時～午後 5 時（入所は午後 4 時 30 分まで）

休 所 日：月曜日、年末年始、国民の休日（こどもの日、文化の日をのぞく）、慰霊の日（6 月 23 日）

※月曜日が祝日の際は、翌日の火曜日も休所

※その他、臨時休所あり